東京日報

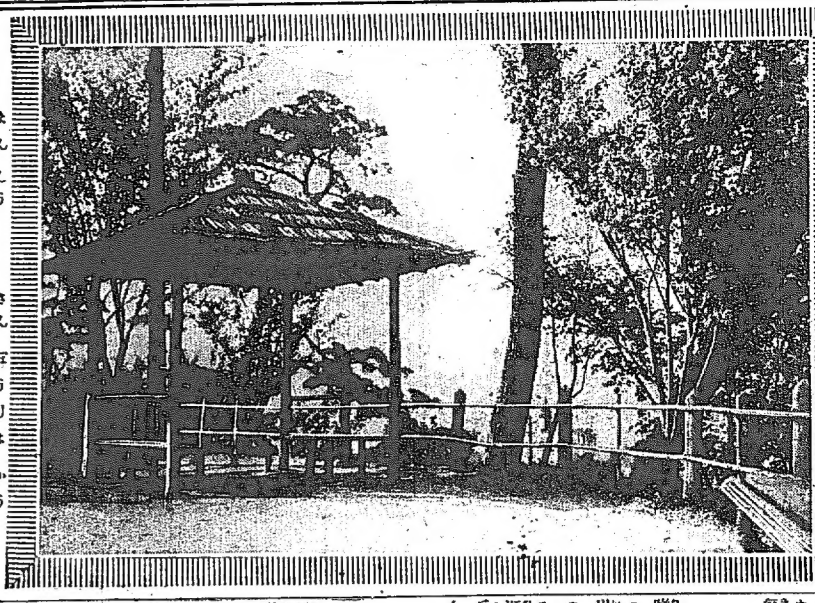
六日夕刊

本紙定價　一箇月金一圓五拾錢　三箇月金四圓五拾錢　六箇月金八圓　一箇年金五拾五圓　郵稅共

廣告料　一行金壹圓　二行金壹圓五拾錢　三行金二圓　四行金二圓五拾錢　五行金三圓　以上一段金拾圓　二段金拾五圓　三段金二十圓　四段金二十五圓　五段金三十圓　以上一行金壹圓　二行金壹圓五拾錢　三行金二圓　四行金二圓五拾錢　五行金三圓　以上一段金拾圓　二段金拾五圓　三段金二十圓　四段金二十五圓　五段金三十圓

發行所　合資會社　京城日報社

電話　編輯局　第三四五番　二二四番　二二六番　二二七番　二二八番　二二九番　二二〇番　二二一番　二二二番　二二三番　二二四番　二二五



八重櫻—南山公園

# ◎滿洲で參謀旅行

## ヴエルダンと旅順—宇垣少將談

參謀旅行は毎年と言ふ譯でも無いが今迄は內地でやつてゐたけれど日本での古戰場と言へば關ヶ原とか何とか皆非常に時代が違ふので今度は滿洲の戰跡を訪ふて最近に各〻其實際に戰はれた位置で參謀的講話なり何なり其方面の智識を得させようと言ふのである、既に日露の役も十年の昔と成ると

### 若い將校の內には日露役の實戰

を知らない者も澤山あるから今度滿洲で參謀旅行をやる事になつたのはいゝ思ひ付であつたのだ今年の成績に據つては又明年も明後年もやられるだらう、殊に滿洲の位置のいゝと云ふ事は十年前の大戰と今次の大戰との間には非常な進歩があつてるので其等の比較にも面白いと思ふ殊に興味のある事は現に戰はれて居るヴエルダンと彼の旅順の對比である

### ヴエルダンの攻擊が開始されてから三箇月に近い日子が費やされてゐる今日に於ては流石の獨逸軍も止めるには止められず寧ろ自棄氣味に攻擊してる樣子もあるが一體此要塞は旅順や青島とは違つて後方が開いてるのだから兵糧や軍器の道を斷つと云ふ譯にも行かない旅順あたりでもまゐれば非常な肉彈を犧牲にして今日敵の砲十門を破壞し兵一千を倒し得たとすれば明日は其れ丈け敵の勢ひ減ずる譯だがれど此要塞は今日失つたものは明日と言はず其日にでも充分に補充し得る位置にあるのだから仲々厄介だ

### 其れ丈け攻者にとつては難所で

あるに違ひないヴエルダンが陷る陷ちないと隨分世論は喧しいが我邊などに言はせれば獨軍に今一層の眞實の勇氣があつて突擊して行つたならば陷落しない事は無からうと思ふ併し今日ではヴエルダンの陷落は唯士氣上の影響のみに止まつて物質的には何等の利得も無いであらう切めて攻擊開始の當座だとすれば後方防備も出來てゐなかつたらうからヴエルダン陷落と同時に多大の附隨した優位を占取する事が出來たかも知れない

### 即ち物質上士氣上兩々共に利益を得たかも知れない

假令一路直に巴里に殺到する事は出來ないにしても金城鐵壁難攻不落と稱せられたヴエルダンが陷ちたとすれば獨逸の士氣の昂るのは言ふまでもない左ればこそ佛蘭西は出せるだけ出せと聯合國側では露軍を迂回輸送して馬耳塞に揚陸しつゝある還く露軍を輸送したと云つて決して實戰上非常な勢を加へ得ると云ふ事は出來ないであらうけれど矢張り是も亦士氣振興の策であらう

### 成程今度の戰爭は實に大戰爭で

聯合兩側も同盟側も國を擧げて戰つてゐる併し乍ら既に早くも一年半以上二年に近く戰ひ續けられてゐるのだから双方共に可成り疲れてはゐる所謂精兵の戰ひではないであらう漸く二三箇月間訓練させられた補充兵が戰つてゐるのであらうと思へば十年前の日露戰役など鴨綠江の戰ひから次第に北に行つて遼陽あたり迄は精兵で戰つたのが沙河、奉天の會戰などでは日本軍も大分困難してゐたのだ彼此思ひ合はすれば今度の戰爭は一段と其上だから今頃は双方共疲弊の度は尠くないことであらうと思はれる——恁の如く戰ひ乍ら此戰爭の終期は今豫測だもすることは出來ない然し日本などの樣な位置から言へば戰爭はいつまでも永く續いたとて大け利益になるから先づ戰爭の終期を考へる間に戰後の策に就て畫策して置た方がいゝつてな！

# ◎獨逸婦人の大暴動

## 平和を要求し各都市殺伐を極む

獨逸にては之れ迄に無き重大なる暴動を惹起したるが暴徒等は重に婦人にして平和を要求し民心頗る激昂し即ち伯林、ミュンヘン、キール、ケンニツ其他の都市の如き光景顧る殺伐を極めつゝあるが之れと同時に地方にては農夫の妻女等は官憲に對して目下戰場にある夫及び子息を歸還せしめんことを哀願しつゝあり

又た一說に依れば此の暴動の爲め既に婦女子の多數死傷者を出したるも官憲側にては事件に關する詳細の發表を防止し居れり又た數名の演說者はボツタムに於て公開演說を試み此の際直ちに平和の克復せんことを主張して大喝采を博せるが群衆內勞働者多く警官は彼等の行動を制止し多數の捕縛者を出せり（倫敦電報）

### 七日の城壁廻り

雨天ならば次の日曜

興味多き城壁巡りはいよ〳〵七日の午前八時から始めゝ事となりました何分にも平素眼と鼻との間にあるこの古き城廓を一度も歩いて見た事のない人が多いので昨今巡城遊はす若くは先生などに引率されて參加せられ度く教育上體育上共に參考資料となるものが多いと信じます南大門小學校出發の定刻午前八時は勿論行します若し

▲非常な人氣を　呼んで居ります、殊に本町筋の靴屋の如きは城壁巡りの爲めに兵隊靴が飛ぶやうに賣れるといふ大人氣、行列の先頭にはまた純朝鮮式の音樂隊が進みますから曉春日曜日の清遊としてはなか〳〵興味多き試みと信じます、山路の登攀には靴よりも或は草鞋などの方が便利かも知れません、中食は白岳の東側なる蕭靖門のあたりで

▲團員一同打ち揃つて喫べる事になりました、其處にはお茶の準備もありますが途中の用意の爲め水筒をお持ちになれば猶ほ便利かと思ひます、また費食後京城の地理、歷史、傳說等に就いて一場の講話を試みる筈の陸軍砲兵正領魚潭氏は一兩日來下痢のため疲勞し居り遺憾なから南大門より團隊と行動を共にする得ず蕭靖門に一行を待うけて講話される事となりました、猶ほ

▲途中に植林地　が多いから樹木の枝を折りとつたり、または處嫌はず煙草の火を鑑中に捨てられぬやう各自の御自重を願ひたい、また學校生徒諸君はなるべく責任ある保護者の下に潛む、二三日前の、一り感を限なく捜索せる內一個の大盜、暴風雨の晴注文津沖にて遭難行衛不

# 城壁巡り

京城觀測所の觀測にては七日は少雨又は曇天なるべしといへば七日の城壁巡りは遺憾乍ら次回の日曜に延期の餘儀なきに至るべく詳細は七日朝刊を以て報ずべし

### ◎空瓶買は賊

京城黃金町空一より報一足（一圓）を驅取し一圓五十

### ◎氣遣しい天候

七日は少雨か曇天

七日日曜の城壁廻りを控えて、五日夜半よりの雨は六日に至るも晴模樣なく此分にては七日の天氣も氣遣はるゝ次第なるが京城測候所の觀測に依れば此の雨の原因は五日以來南支那揚子江方面に起つた低氣壓の爲めである、深さ七百五十六粍の低氣壓は六日朝黃海に出で更に半島の中部及び南部を襲うた、內地では長崎、下關も雨がふるが朝鮮では木浦が一番ひどい、晴れるのは此低氣壓が半島を橫斷して日本海に逃れた後でなければならぬ、此の分では六日中に低氣壓が去るか七日まで持越すかは鳥渡むづかしい、假令六日の夜中に東方へ進み去るとも七日は少雨又は曇天であらう（京城測候所員談）

### ◎精米工場全燒

#### 仁川の草火事　消防夫の重傷

六日午前十一時五十分仁川外里二百三十五番地張世金所有龍洞精米所より出火し同工場二十坪を燒失して十二時三十分鎭火したるが消防夫池邊清七（三）は消防中同工場崩壞して其の下敷となり重傷を負ひたる爲め直ちに仁川病院に擔ぎ込み治療中なるが生命には別條なかるべし原因は狂女の放火にして損害約二百圓なりと云ふ（仁川電話）

### ◎尺八名手來京

#### 琴古流尺八

川本派宗家東京尺八講習會長川本逸童氏は門下の俊才村井逸俗氏及び檢校勾當各一名を伴ひ對州嚴原の災害救濟慈善演奏會に出演の序を以て朝鮮各地の漫遊を思ひ立ち四日夜は釜山新天座にて盛なる歡迎演奏會を開催したるが京城には六日夜著の豫定にて同好者は歡迎會準備中なり

### ◎銀行聯合運動會

#### 京城各銀行、東拓金融組聯合春季運動會

は七日午前九時より慶福宮秋庭門內にて郵行の筈なるが當日若し雨天ならば運動會を廢し十一時より壽座に懇親會を催す可しと

### ◎臺灣興業行

#### 出羽ノ海の談

太刀山西の海組、風大錦組は京都に落ち合つて四日初日晴天五日朝の大相撲興行に京都の人氣は引立つて居る木屋町藤屋旅館に出羽の海を訪へば『毎度ながら臺灣の暑いのには閉口しました一行の元氣は素張しいもので盛んに稽古をしました取組に入るのは毎月午後一時頃ですから朝は八時から十二時迄アノ暑い中で大錦、栃木山、宇都宮、大蛇潟、浦の濱等は

▲必死になつて　申合せて居ましたが其中でも宇都宮は非常に元氣を快復して大抵に對して拳ち傷ちが込む位突張るすれば小手展り

### ◎七日の城壁廻り

七日日曜の城壁廻りは雨天なるべしとの豫測なれば次回の日曜に延期し更に其迄に城壁に關する各方面の研究材料を蒐集して參加者諸君の坐右に呈する、假令七日晴天の見込付くも六日中の降雨の模樣に依りては途中の悪路を慮りて延期に決するやも知れざれども調査の上更に七日朝刊紙上を以て發表する事とする

### ◎臺灣興業行

#### 出羽ノ海の談

太刀山西の海組、風大錦組は京都に落ち合つて四日初日晴天五日朝の大相撲興行に京都の人氣は引立つて居る木屋町藤屋旅館に出羽の海を訪へば『毎度ながら臺灣の暑いのには閉口しました一行の元氣は素張しいもので盛んに稽古をしました取組に入るのは毎月午後一時頃ですから朝は八時から十二時迄アノ暑い中で大錦、栃木山、宇都宮、大蛇潟、浦の濱等は

▲必死になつて　申合せて居ましたが其中でも宇都宮は非常に元氣を快復して大抵に對して拳ち傷ちが込む位突張るすれば小手展り

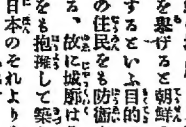
# 京城の城壁（6）

圖＝歩兵佐　竹内榮喜氏談

攻撃は京城に來てまだ日が淺いので城壁を破壊する準備なし見物もしかし居らねば所に短時間滞留の實間で攻撃に至るはなしも能きかれるが故に大體の觀察をなししよう

朝鮮に於ける築城の方式はこれを三つに區分する事が能きる、即ち最も古き時代の山城と、其の次ぎに出來た山城と邑城の混合式と最も新らしい邑城との三つである、第一の山城は云ふ迄もなく高い山の絶巓に城壁を築いた城であつていざといふ場合には兵士が是を守備するは勿論山麓の住民は皆城内に立籠る用意を施すのである

さて朝鮮各地に遺る古き山城はみな第一のものに屬する、然るに此の山城には一方飲料水などの缺亡といふ不便が伴ふので後には平地にある村を利用した第二の山城邑城混合式が生れたこれは今でも朝鮮になかなか多く彼の咸鏡北道の會寧及び富寧の如き省境の第二に屬するものである、無論京城の城廓も此の山城邑城混合式である、次ぎに第三に出來たのが最も新らしい邑城といふのであつてこれは全く平地に建てられた城――例へば成北の鏡城の如きがそれである、



圖＝ほぼ城門の外觀
には京城東大門の如き水原八達門の如き例形の進歩したものもあるが日本内地の城廓には必ず城門の外に築かれてあるが然るに鏡城々廓の如きは唯だ方形の城廓の四方に樓廓があるのみで城門の外に此の設けがないやうである次ぎに朝鮮の城廓と日本の城廓との相異點を擧げると朝鮮のは敵の來襲を防禦するといふ目的の他にまた其の土地の住民をも防衛する目的に出來て居る、故に城廓はその中に大きな市街をも抱擁して築かれてあるから勢ひ日本のそれよりも大規模とならねばならぬ、飜つて

日本の城郭は封建時代の築城に見るも皆城主が自分の居城として

攻防の根據地としたもので朝鮮の如く住民の防衛までも慮つては居ない云ふ場合も附近の住民が城内に逃れる譯には行かなかつた、これが日鮮兩方の主なる相違點である、次ぎに支那の築城法並びに西洋の城廓等も皆朝の朝鮮式に等しく彼の佛蘭西の首都巴里の如きも要塞が市街の防衛に出來て居る、此の理由は詰り

■日本の如き城郭には他から國を奪にする民族の來襲が無かつた

爲めであつて支那朝鮮及び西洋では各民族の鬪爭が激しくある勢力を有つた人は自分の一國郎黨をも庇護する必要があつたからであらう、併し朝鮮の如き尨大な城廓と日本の如き小じんまりとした城壁と何れが果して有利なるかこれは一の疑問である現に京城の如き周圍四里に餘る城廓は現に文祿の役にも京城城が戰はずして陷落したのもその爲めであつて彼の宰相柳成龍のかいた懲毖錄中に京城城廓の缺點を記し詰り周圍が長すぎて守備に困難であると記して居る、また同じく市街を守るにも西洋のは中央に城の本丸を置いて他はその周圍を分派堡でとびくに圍むで居る、分派堡の間は砲彈の著彈距離等によりて考へられてあるが

■守備軍はいよ〳〵此の分派堡が陷落した後本城に立籠る

のである、目下獨軍の猛襲を試みつつあるヴエルダン要塞の如きも此の分派堡の爭奪戰である、要するに城廓及び要塞の價値は小數の兵を以つて部隊の敵に當るのであつて守備は敵に一歩を讓つた場合の止むを得ない時に出づると雖も一方進出する力で大部隊の敵に當らねばならぬ、此の點から云ふと朝鮮の城廓は城に價値の少ないものであると云はねばならぬ、猶ほ

■城廓の研究の專門家

には文學博士大類伸氏が有名であるが氏は此の研究の爲めに博士となつた人でその著書「城廓の研究」を讀まれたら東洋西洋の築城に關する概括がよく わかる、我輩も昨年熊本城の研究を試みつゝあつたので博士に會つたが博士もその論文の一部を發表して居られる

## ●番附は十三日か

夏場所も愈々半月の後に迫つたので十日に發表される新番附も愈々三日の朝から根岸の印刷所で刷り始めた此夏は一番に巡業力士の歸京が遲れたので、稽古場はまだ至つて淋しい唯だ雷部屋に第三組の連中と出羽の海部屋其他の微兵檢査に歸つた連中がポツ〳〵稽古を始めてゐる位のものである力士の歸京が遲れたと言へば番附發表の都合などがあるので發表は十三日頃にしては何うかといふ說もある（東京）

## ●試乘大會延期

六日午後一時半より馬術練習所に開催の筈なりし乘馬倶樂部春季試乘大會は雨天の爲め七日午後一時開催の事となれり若し當日雨天ならば更に來週土曜日に延期す可しと

## ●海鼠漁船救はる　四月九日

内地人車夫なりしも内地人車夫一人は生命に別條なく内地人二名は屍體となり船體に縛しあり他の七名は全く行衝不明なりと

## ●小泥棒二件

京城笠井町一丁目四十五番地周衣の下に匿して持出し家宅侵入したる形跡あるも其影を見付ざりしが未だ逃げ出したる模樣も無きよ

## 京城日報毎日申報各支局主催

# 御大典活動寫眞

■光州（六日夜）■大田（九日夜）■大邱（十四、十五日夜）■釜山（十一日夜）■仁川（十一日夜）

■大田―大田座（電話番號午後一時より）番外寶寫物―滑稽物―西洋奇術

一等四十錢■二等三十錢■三等二十錢

主催京城日報、毎日申報大田一手販賣所小倉新聞舗

## 活動寫眞謹寫巡業日程

京城日報、毎日申報の現職讀者は各等三割引のみならず同時に二等入場券四枚購入の方には御希望に應じ兩紙の中一つを一箇月間無代進呈

## ●直通列車延着

鮮滿直通列車は安東縣に於る延着十三時間五十五分なりしより京城通過は六日午前九時四十九分著直に釜山に向へり

## ●懷中時計を詐取

京城鍾路五丁目金銀細工業安武某（三）は知合ひなる建築洞林相鎭より懷中時計二個を詐取したるより鍾路署に引致さる

## ●營業取締規則の研究

京城鍾路警察署にては五日及び六日兩日當署巡査全部を召集し五月一日より實施の各種營業取締規則の研究を爲せり

## ●直通列車

（大きさ△お鶴お三輪が美人大奉見△真洲合郡辻山若）

△浪花節開演　大阪觀光團主催浪花節開演

△大名行列三蔵（小菊丸）△手踊鶴（虎吉）△天保利根の丸四虎深虎△男前若山（千代）△鶴千代（千代）△鶴千代（千代）△鶴千代

# 宮本武藏

第三十回

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

森島半平宮本を自宅に留めて置いて御前へ出ると、十兵衛先生何時もの病氣が起つて居る、廣間へ三四十人の門人を集めて十兵衛一段高き床に座を占めて孫子の講義をして居る所だ半平之を見て　半『困つたな、又病氣が起つて居る、宮本には氣の毒だが執次をしても無益だと思ひましたから其儘退かうとすると　十『半平待て　半『ハツ　十『何故出て來て下る只今兵法の講義をして居る、聽聞いたしたら宜からう、又聽ぬなら何故出て來た　半『實は只今御執次に罷出でましたが、御講義央ばにして御障害に相成つては恐入りますに依つて引下りました　十『左樣か、何用ぢや　半『エ、小靈原の家來宮本武藏正名が尋ねて參りまして、一手御教導に預りたいと申します、拙者屋敷に控へさせて置きましたが如何仕りませうか　十『左樣か素倍臣の分際として十兵衛と勝負をしたいなどゝ申す不埒な奴だ、追歸して了へ　半『畏まりましてございます　十『併し下郎の口は善惡なきもの、十兵衛宮本に叶はぬを知つて虛病を遣つたなどゝ吹聽するかもしれぬから面會して遣はす素倍臣であるから鄭重にしてはならぬぞ、宜いか　半『ハツ　十『コレ〳〵武だけ疎末にいたせ　半『ヘツ』どうも困つたものだ、疎末のないやうにしろといふのが當然だのに、なるだけ疎末にしろといふ之が普通の人と異つて居る、宮本には氣の毒だが仕方がないから半平虛々屋敷に立歸つて來た　半『さて宮本先生御前へお執次をいたしましたが、御病氣で是々斯々の次第、御立腹なさると手前が困ります、腹を立てぬと仰しやるなら御案内致しますが、もしお氣に障りましたらどうか一旦御歸りを願ひ病氣全快致した時分に御尋ね下さるやう願ひます　武『ハ、ア妙な御病氣で何時になつたら御全快なさる　半『左樣長い時は三月或は四月短い時は一月位ゐで全快いたします　武『其は大變で拙者も少々用事のある身でございますから御待申して居る事は出來ない御病中でも御手の中にお變りなければ是非御立合を願ひたいもので　半『其は按個に變りはございませぬ、反つて鋭どい位ゐ、併し今申上た通り御立腹なさるやうな事を申しますから　武『其は覺悟いたして居ります、前に見猛を置いて傍らに兵書を積重ねてある、左右には門人の面々著座して悉閉して居ります、宮本其へ出て平伏して居る、十兵衛先生構はずドン〳〵講義をして居るが、言ふ事は更に間違つて居ない、書律も確かなもの、武藏ハテな之は狂人ではない、態と怪ういふ風にして居る に違ひないと考へて居ります、暫らく經つて　十『半平〳〵　半『ハツ　十『汝が先刻執次いだ小靈原の家來宮本武藏といふ倍臣は其者か　半『ハツ　十『コレ武藏、予が十兵衛である、其方此十兵衛に一手劍術を敎へて貰ひたいと申して參つたさうだが、其方些少ばかりでも劍術の心得があるか、イヤ木劍の持方位ゐは心得て居るか、どうだ　武『ハツ些少學びましてございます　十『自分で些少と申す位ゐだから大した事はない、木劍を逆さに持たぬだけであらう十兵衛が手を下すまでもない、半平に敎へて貰へ　半『平心中に氣の毒千萬承はる處の宮本先生神免二刀流の開祖却々半平如きものゝ對手でない、武藏先生立腹をしなければいゝがと案じて居る　武『恐入りました藝道未熟の者でございますが大先生に一手御指南を願ひたく遠々參上致しました、何卒格別の御思召を以つて御敎導に預りたく　十『予に四天王がある、四天王を打込んでしまつたら予が敎へてやる四天王に負けるやうな奴なら目通り許さぬ、文句をいはずに半平と立合へ、予が見物して遣はす』宮本心中に考へる處十兵衛區狂人に相違ない宜し我技倆を見せて呉れんと心中に考へたから武『然は御免を蒙ります』

入院隨意
胃腸病院
電話一六五九番
院主　佐々木杏造
京城南大門四丁目三番
（本店は京城）

京城大和町三丁目
（老婦人科）
中谷小兒科內
電話一〇三三番
醫院

五月八日九星
書四月七日乙巳
本命九紫南離卯波

▲九紫　家を買ふが如き有日注意▲一白　捕へ所なき喰有日▲八白　西方は吉明御面▲一白　捕へ所なき喰有日▲八白　手段為すに吉人と相談せば吉▲四綠　萬事▲三碧　景氣よき日輪居求職試驗受る▲五黃　金弁名弘求職試驗受る▲五黃　日輪居入學試驗受る▲五黃　奴隸の日▲綠居▲白　商品洗名弘家作金談▲綠居生國業者吉▲五黃　蔵の日▲綠居門松吉吉女子は國又自然▲白　明るに妙也待人氷▲六白　目的の狂人出意▲七赤　卯手拭賣事は吉小兒種此水敵注意▲七赤　一寸の手遊ん生ぜんとす　新水手拭ッ水は吉一切のかけ引ん結ず▲八白　國濕なる日輪居驚人身名弘求職試驗受る▲五黃　日輪居求職試驗受る▲五黃　日輪居求職試驗受る▲五黃　日輪居

京城日報　第三版　大正五年五月七日（日曜日）

# 京城論壇

## 答人論東國文章源流

子爵　雲養　金允植

客の金を遣る者あり、世の將に讀書の種子無かんとするを歎ず。依つて縱言して文章の學に至つて曰く、我が東文章は、時に隨つて汚隆あり、今文蔚の長老、零落殆んど盡く、後生以つて述よる者無けん、予能く詳らかに其の源流を言ふ乎。余之に應へて曰く、僕少時頗る文藝を攻す、然れども口耳の餘に得て、深造あるに非ず、今晨零己に甚し、何ぞ敢て古今人の長短を論ぜんや、蓋し嘗て先輩の緒言に聞くに、三國中葉以後に在りては、公用の文字、皆文選に倣ふ、任彥昇・王筆文昌の如きは、其の類なる者なり、歷初に至つても猶ほ然り、而して名臣の章奏及び碑版の作の若き、往々雨漢の氣味あり、後世の及ぶ可からざるなり、其の季に及ぶや、金黃・徐庾・牧隱・諸公、倡へて古文辭を爲し、大に世に鳴る。而して張新豊の『簡易齋集』の序に云ふ、虛白・四佳の文は、通敏・健麗の香に一穀す。其の後佔畢・乖厓・四佳・虛白は大家を以つて稱せらる。而して法寡く、佔畢は精に非ずして、而して法寡く、佔畢は博くして利用、館閣の業たり。乖厓は博くして、而して法寡く、佔畢は精にして大ならず、右文の化宜廣に極まれり。而して簡易は其の首と稱せらる、其の文寒ろ暢にして或は淺なる母く、寒ろ謹にして或は凡なる母し、長を載ち短を續く、乖厓・佔畢・鼎足す可し。是時また象村・月沙・溪谷・澤堂あり、世稱して飛月溪澤と爲す。象村の文は、鎔鑄洞洗、明末淸初の文氣あり。月沙の文は、膨彭を以つて工を爲さず、行文馴熟、其の言はんと欲する所を盡くして止む。論者また云ふ。溪谷は天才優にして、澤堂は人工勝る、蓋し各長ずる所ある也。農岩の文は、學理醇深、意庵の文は、氣力雄渾、溪澤と並び稱せらる。藥泉・明谷は奏議明暢、館閣之才と稱せらる。英廟の時には、雷淵・晉庵・醇庵・江漢の諸公、迭ひに文盟の主たり。而して左に江漢を推して大手筆と爲す、其の文、典雅高古、史才に長じ、古作者と一席を爭ふべし。又近世の作家には、淵泉・蘆山を推し、淵泉の文、步趨度あり、而して舒餘春容、感激外に越えず、而して學問の根據無きは、人其の質を以て操觚之士、未だ曾て涵養研索して傷けず、洵に治世の文と爲す。蘆山の文百氏の英を撮り、融して一家を爲し、俯仰致あり、風神儁然たり。此れより以往、寥々未だ聞くことあらざるなり。蓋し麗末より、群賢性理之學を宗として、文を爲す而して學問の根據無きは、人其の質を病ひて取らざるによる也。是を以て操觚之士、未だ曾て涵養研索の工あるなく、口を開けば便ち性命を談じ、宋賢の書牘を摭拾し、以て自ら其の文を潤す、此れ亦た文の一病なり。能く此の病を脫せしは其惟蘆岩乎。蘆岩の文、天馬の空を行くが如し、霧鞅を施さずして、而して自然節に中る、其の言蓋世に稱する有り、無益にして發せず、是れ文中の龍と謂つべし、後世の學んで得可らざる者なり。大略此の如し、繼述すべからず。其れ觀は簡に止り、識は都に及ばず。即ち此を以て世の汚隆の觀を爲すべしと。容唯々として退く。

# 製鐵問題（一）

## 一、戰亂と需給

▽工業時代來　歐洲戰爭といふ大活劇が如何なる大詰の幕を以て大團圓を告ぐるにせよ、此戰爭が世界に將來變化を與ふることの至大なるは既定の事實である。我が日本の如きも敢て戰後云は寸既に今日に於て產業界革新の時期に逢著して居る。革新とは何を意味するか？其は改めて言ふ迄もなく、工業を中心とする產業組織の實現である。而して何故に工業が今後日本に勃興するかの理由を說くことは此記事の目的でなく、茲には工業時代の到來といふ事を確乎不動の前提として、工業の勃興に附隨し離る可らざる鐵の需要に供給に關して根本の重要問題に立入て調査材料に基き、世人の注意を喚起せんとするが本記事の目的である。而して如何に高い運賃を仕拂つても必要の船腹を得るの出來ない狀態をすら現出せしめた。之に加ふるに英國の鐵工業は開戰以來總て英政府の直轄に歸し、軍需品製造の多忙と相俟つて英國の鐵工業は其全能力を傾盡して晝夜兼行なほ且つ足らざるを虞れる、といふ有樣である爲め、到底他國の需要に應じ居る遑がなく、殊に板鐵を除くアングル物に於て最も供給不能を告ぐるに至つた。然るに米國は之とは反對で、彼は其の中立國たる地位を利用して、開戰以來盛に交戰諸國に對し鋼鐵材料を供給し一方又米國內地事業界の戰慄に伴よりて、彼のペツレヘム鐵鋼會社を始め幾多の大鋼鐵會社は擴張に次ぐに擴張を以てするも到底容

▽開戰前の悲境　歐洲開戰以前にありては世界一般に鐵の需要が著しく減少して居つた、鐵市場は近年稀に見る不振に陷つて居つた、米國の各鐵業組織をさへ斷行するものがあつた、外國既に然り、我國の鐵市場も亦其影響を受けざるを得なかつた、即ち當時內地一般經濟界の不振と相俟つて鐵市場は非常なる悲境に陷り鐵商の破綻が續出した。これが開戰前の狀態であつた。

▽開戰當時の市場　然るに端なく歐洲が擾亂の巷となり形勢は俄かに一變した。從來我國に多量の鐵類製品を供給し來りし獨逸白耳義等の諸國よりの輸入は開戰と共に絕對に不可能となり、其れが爲に內地市場は早速影響を蒙ふり、大正三年八月下旬の相場は、開戰前の同年七月下旬に比し約二倍の騰貴を告げた、尤も其當時にはなほ既約定品が續々入荷して居り、且は幾分見越輸入をなせるものもあつた故、其年の秋冬の頃より一時反動相場を現はし、市價も多少下押を見るに至つたけれども、其後戰局は漸次展開して前後の見込が立たないのと、內地の在荷が漸く減少したのとで、市價も亦奔騰の傾向を呈し來つた。その爲め我が鐵工業者は從來比較的取引の薄かつた英米兩國市場に向つて供給を仰がざるを得なくなつた

▽英米の供給制限　年併世界を通じての船腹の不足は運賃の騰貴を促したるのみならず、往々にして如何に高い運賃を仕拂つても必要の船腹を得るの出來ない狀態をすら現出せしめた。之に加ふるに英國の鐵工業は開戰以來總て英政府の直轄に歸し、軍需品製造の多忙と相俟つて英國の鐵工業は其全能力を傾盡して晝夜兼行なほ且つ足らざるを虞れる、といふ有樣である爲め、到底他國の需要に應じ居る遑がなく、殊に板鐵を除くアングル物に於て最も供給不能を告ぐるに至つた。然るに米國は之とは反對で、彼は其の中立國たる地位を利用して、開戰以來盛に交戰諸國に對し鋼鐵材料を供給し一方又米國內地事業界の戰慄に伴よりて、彼のペツレヘム鐵鋼會社を始め幾多の大鋼鐵會社は擴張に次ぐに擴張を以てするも到底容

國よりの殺到する需要に應ずる事の出來ない盛況を來した。それが爲め昨年十一月に入つてガーネギートラストに莫大なる軍需注文高及び從來の契約に屬する注文品の整理といふ名義の下に鐵管類を除く鋼鐵板鐵其他厚物一切の新規注文を謝絕する旨を發表し、同時に此のトラスト側に屬せざる諸會社も亦注文滿腹の故を以て本年六月までは出荷に應せざる旨を發表陳言するに至つた。それでなくても開戰以來需給關係の變調により激成せられたる我國の鐵の市價は、此の爲め愈々益々昂騰を來し、之に加ふるに最近地中海航路の危險より被れる英國品の輸送困難と、英國政府の鐵物輸出阻止政策とは、我國の鐵市場をして當分外國より鐵材の供給を受くること不可能たるが如き苦境に陷らしむに至つた。

# 京日詩壇

○折梅寄人　木田芳洲

午暄濕曳四山霞。吟意偏兼春意加。乍被早營促杖屨。吟意偏兼春意加。乍被早營促杖屨。江南第一訪梅花。樹樹宛作臥龍態。蕾蕾幹斜臨流水。瑶疎蕊如雲暗香逆。氣韻淸奇影搖拂。餘葩吹入茅店酒。酣醉歸途月照沙。與來折得橫枝好。一半贈愛贈君家。

評曰　叙景清麗殆淩畫手、

# 日報歌壇

□花のうはさ　京城　如花

今も尙嫁がで吾に年ゝの花のうはさを言ひよこす君

おぼけたる九官鳥に藏れて君と遊びし春かへり來ず

□夢　京城　萬里子

强ければ自ら賴みしわが心この頃いたく泣くことのあり。

身一つの餘る思ひの苦しさに狂へと絲にいひけり。

# 社告（變更）

新活字入替の爲め八日の朝刊を休みます

新活字鑄造中の處今回全部完成せしに付き新舊活字入替工場整理の爲八日（月曜日）朝刊一回丈け休刊同日夕刊より平常の通り發行可致

右謹告候也

京城日報社


七日朝刊（夕刊と合せて八頁）

本社　京城日報社　電話　編輯部　發行所　京城日報社

仁川米豆取引所

大阪朝日報

春季店員慰勞の爲め　明八日臨時休業仕候　五月七日　京城　三越呉服店

大邱覆審法院通譯生　山之井麟治著　四六版　定價五十五錢　三百餘頁　郵稅六錢

再訂正增補版　解釋自在　習慣窺知　事務敏捷　携帶至便

本書は鮮人と文書類の往復、受授を爲し又は鮮人の提出に係る訴願、情願、願書等に對して處決を與へるべき地位にある人にして、未だ朝鮮の熟語、俗字に通せず、爲めに一々飜譯に付せしむるの煩を除かんと目的を以て刊行したるものにして、兼て未だ書く知られざる、朝鮮の風俗、慣習をも容易に識知し得らるゝ點に於て、聊か他書と趣を異にせり、本書は文獻、備考、隱書、大典會通、有名なる會話篇、古代詞訟書類、俚諺を始め其他趣味ありと信じたる朝鮮雜書數十卷を參考として、二千三百餘語を蒐集し、之に一々明細なる解譯を施したるも、尙不備を補ふ爲書込開を設けたり、叅考の本書の爲に年を費す事一年有半、原稿を改むること前後五回、所道名士の嚴格なる校閱を經て愈に完成する事を得たり、本書により普通朝鮮文を讀去するを得朝鮮文の天爾遠波譯方をも附錄として添付したれば、何人にても本書により普通朝鮮文を讀去するを得

發賣元　京城日報社代理部　振替京城三〇〇番　京城太平通壹丁目

大取次所　大阪屋號　日韓書房　嚴松堂　玉村書店發行

他ヲ貶セズ我ヲ慢セズ　キリンビール　公平ナル御批評ヲ希フ

第六十四回勸業債券（拾圓）賣出

■總額　四百萬圓　利子年五分（毎年三月拂）

■賣出　五月十六日より三十一日まで

當銀行、各地代理店、取扱店並に各地郵便局にて賣出す

■くじびき　初回は本年八月、以後毎年二月、八月の二回

■割增金

| 等級 | 金額 | 初回 | 二回目以後毎回 |
|---|---|---|---|
| 一等 | 貳千圓 | 十本 | 四本 |
| 二等 | 百圓 | 百八十本 | 二十本 |
| 三等 | 拾圓 | 二百八十本 | 二百本 |
| 四等 | 五圓 | 七百二十本 | 三百七十六本 |
| 計 | | 一千二百本 壹萬九千貳百圓 | 六百 壹萬參千八百八十圓 |

東京市麴町區內山下町（振替貯金口座東京第四番）　日本勸業銀行

大正五年五月

京日案內

普通　番外

京城日報社代理部　京城日報社

京城永樂町一商品陳列館數の上　皮膚病　花柳病　須七　醫院

京城太平町二ノ三〇　分析　鑛物各種（正確迅速）　朝陽分析所

外勤社員招聘　諸鑛石分析及測量　金鍾商鑛業所

太正生命　京城府鐘路三丁目八十八番地　一〇二六

明治町　柔術道場

●ほねつぎ　一切の治療御依頼に應ず　明治町　柔術道場

眼鏡專門　各眼病院用達　宮川大學堂　京城黃金町　振替京城壹貳九

東京　京城南大門通三丁目電話二壹九八番　帝簾タワシ類製造販賣　栗鳥辰次郎

御披露　妾儀今般京城期道界の御招聘を蒙り左記の所に於て小笠原流諸禮式熨斗折方水引懸方教授及花道生花池坊流最も親切に指南を仕り期道全般を御敎示可申候ては御披露の爲來る五月七日より三日間拙宅に於て新案出に係る小笠原流水引熨斗折方並に生花の陳列會相催し候間御來觀願上候　京城旭町一丁目九十四番地　小笠原流諸禮式熨斗折方水引細工花道生花池坊流教授所　茶道千家表流　池田柳子

タングステン　用手卷拉機械及大マグネット中根式鐵山機械は始政五週年記念物產共進會に於て賞牌一箇狀三を授與され朝鮮一の鐵工界に於ける最初の受賞者たるの光榮を得

新刊書御案內　會名　著者　價

浮城物語　矢野龍溪　一〇〇
生きんとする努力　大倉鶴郎　九五
東京の近郊　田山花袋　一〇五
日露戰人之寶訓　文部省　五五
髮小學　昌業　四〇
通信販賣小資本成功法　水正己　五〇
日本全國女評判記　蔦山岳山　六〇
家庭の衞生　下田四郎　四〇
面白き英語の手紙　桑島昌風　一〇〇
我家の觀閒文　祥雲　七五
誰に出來る株式相場　田尻勝之助　一〇
現代米國外交論　鳥谷榮輔　一〇
米國西部語學概觀　入村利山　一〇
無駄を省く法　佐々木十九　八〇
最近科學上より見た人生　田邊尙雄　二〇〇
たゞ音樂の原理　力安十郎　六五
道志の　安藤孝郎　六五
現代戀歌評釋　尾山篤二郎　六〇
空中の奇禍　櫻井勘兵衛　六〇
マクベス　坪內逍遙　一三五
朝鮮諸官廳法律講義　上原柳蔭　特七五
受驗者必讀　國語漢文ことばの林　大槻信夫　一〇〇

天阪屋號書店　京城本町　電話二〇八六　開替京城二四七三番

# ◎潜航艇戰は報復手段

## 獨逸の對米回答＝英國の海上封鎖

獨逸は米國の通牒に對し回答書を送り獨逸の潜航艇戰は英國の海上封鎖に對する報復手段に外ならずと永々しき辯解を試み且つ曰く獨逸は海軍に對し國際法規に依りて認められたる商船の臨檢及び破壞の主旨に基き海軍交戰區域として定められたる區域以外に於ける商船は彼等が遁走又は抵抗を企てざる限り警告を與ふる事なく又は人命を救助する事なくして撃沈すべからずとの命令を發せり而して獨逸は米國が英國も亦中立國船舶の權利を認めて其の封鎖を實行せざるべからざるを主張すべしと期待す若し英國にして此の主旨を實行せざらんか更に新局面の發展を見るべく獨逸も亦其の行動の上に完全なる自由を保留せざる可らずと(紐育電報)

# ◎都督辭任と後任

浙江省都督朱瑞は五日辭職し陸將軍は文武官吏の推擧に依り都督の任に就きたるが省内は至つて靜穏なり(上海特電)

# ◎飛行船英海岸を襲ふ

倫敦公報に曰く三日夜獨逸飛行船來襲の際男子六名婦人三名即死し男子十九名婦人十名負傷せり、ノーフォークの北岸にあるラットレー(ッドの沖合に來襲せる飛行船は五六隻にて前後二回内地に侵入し百個の爆彈を廣大なる區域内に亙りて投下したるが多くは人家無き場所又は海中に落下の唯一個所に於て死傷者を生じ十八戸の家屋に損害を與へ負傷者一名を出したり(紐育電報)

# ◎湖南將軍出京

湖南將軍湯薌銘は銜円を立退き二日北京に向つて出發せり(上海電報)

# ◎日獨戰役論功

日獨戰爭に功勞ありたる關東陸軍倉庫旅順要塞司令官其の他二百二十九名に對する論功行賞六日發表ありたり主なるもの左の如し(東京特電)

關東都督府陸軍參謀長少將 西川虎次郎
同 軍參謀長少將 親章
授旭日重光章(一時金一千百圓を賜ふ)
前青島守備軍參謀長少將 奈良武次
叙勲二等授旭日重光章(一時金一千七百圓を賜ふ)
同 同

# ◎製鐵調査委員

六日製鐵業調査委員左の通り任命あり(東京特電)

鐵道院作業局長 島安次郎
陸軍省兵器局長 筑紫熊七
海軍造船總監 福田馬之助
製鐵所次監 服部喜治
蒲鐵總裁 中村雄次郎
東京帝國大學教授 高崎親章
同 室蘭製鋼所長 渡邊精
同 東京高等工業教授 寺野貞一
川崎造船所長 松方幸次郎
鑛山總和會幹事 阪田誠一
東京帝國大學教授 和田維四郎
同 同 國一
住友鑛山部 井上匡四郎
三菱造船所 大河内正敏
三菱鑛業部 鈴木馬左也
大倉組 丸太秀實
三井物産會社 原田鎮治
門野重九郎
福井菊三郎

# ◎駐日支那公使

駐日支那特命全權公使は愈々前農工部次長金邦平氏に決定し本月十日來任の旨支那公使館に公電あり(東京特電)

# ◎參謀總長凝議

上原參謀總長は六日午前九時より田中次長、田中陸軍大臣と招ぎ重要事項に付き鼎坐凝議したり(東京特電)

# ◎陸軍佐官任免

六日左の如く任命發表さる(東京特電)

陸軍兵器支廠長 竹内赳夫
陸軍兵器部長 佐藤要太郎
兵大佐
兵大佐 宮地忠文
兵本廠資島軍政長官 依仰付
兵本廠補野砲兵第十四聯隊長 野砲兵第十二聯隊 岩田富士太郎
兵本廠補野砲兵第十四聯隊附 野砲兵第十四聯隊附 野砲兵中佐 土方久路
兵本廠補野砲兵第十四聯隊附 依願休職被仰付

# ◎補缺議員當選

生駒親忠男爵議員補缺選擧を行ひ十一時開票の結果左の如く任命あり(東京特電)

朝鮮總督府道書記 吉田金作

# ◎書記技師任免

朝鮮總督府道書記 佐藤要太郎
任當州公立農業校教諭(八等)
朝鮮總督府技師 掛札季藏
陞叙高等官五等依願免本官(東京特電)

# ◎重石價の前途

タングステン鑛石の下落に付三井物産京城支店の笠原氏は曰く(薬品と云ひ鐵類と云ひ其の今日の値を現はすまでには幾多の高低曲折を經來りしに唯タングステンのみは天井知らずの有樣にて騰貴に次ぐに暴騰を以て京城に於て最上物噸六千圓てふ素晴らしき値を現はし距冥頃に比すれば約七倍の暴騰なりき從て必ず其の反動の來るべきを豫想しかたりしが果然約三週前より米國筋の入電に依れば現物に於いてこそ其の値を下げざれ先物取引は著しく弱氣なりき而して兩三日前の入電は現物も二割五分乃至三割の下落を報じ來れり其の原因は昨冬來暴西哥反乱米諸國に於て重石昇騰の爲め採掘進捗をなすもの頻出し其の採鑛の漸く多く米國市場に現はれし故なるべく今後も減ぜざるべしと思はるゝ故タングステン鑛石價格の前途は多少の高低を見るも恐らく從來の如く騰ぜざるべく漸落と稱す可からざるも強氣を持するは見當違ひならん唯タングステンの需要は戰時とて毫も減少せず今回の下落が需要減退の爲めならざる事は予の信じて疑はざる所なり尚ほ鑛石下落以來京城にては未だ其の安値にて取引せるものは非ざる如し

# ◎古阜水利計畫

## 豪利三千六百町歩

五月一日附總督府より認可されし全北古阜水利組合の計畫内容を聞くに左の如し

▲古阜平野概觀 全北古阜平野は高敞、井邑及び扶安の三郡に亙り古阜、扶安兩邑内の間に介在し南は全羅南北道界の高嶺に接し北は東津江本流に界し南北の延長一萬間幅員は南より北するに伴ひ漸次擴張し八連の間門を設け上流田面積六百町歩を利用し之れに流水を滿ふるものなりと

▲惡水路の開鑿 古阜水利の水害は之れを貯流する河水の過多に依るよりも寧ろ平野に勾配なく從つて排水の不充分なる點に歸せざるべからず古阜線の流速甚だ緩にして斷面も比し排水量少なく平野中比較的低地なる部分には惡水停滯し遂に水害を惹起するに至るものゝ如し依つて降雨流水潮流等の關係を考査し延長七千三百間の惡水路を新設するものなり又道路を新設し古阜川尻扶安郡白山面德山里附近に高さ九尺中十二尺八連の閘門を設置し惡水を用水に利用する事を得せしめ古阜川右岸及上式灌漑區域約四百五十町歩の灌漑を便にすべしと

▲工費五十四萬圓 總工費は五十四萬圓の豫定にて十二箇年賦の池堰現費敷地費惡水路費等に其の全額を費やす灌漑面積三千六百町歩に割當ては一反十五圓に該當する山

▲古阜平野概觀 全北古阜平野は高敞、井邑及び扶安の三郡に亙り古阜、扶安兩邑内の間に介在し南は全羅南北道界の高嶺に接し北は東津江本流に界し南北の延長一萬間幅員は南より北するに伴ひ漸次擴張し八連の間門を設け上流田面積六百町歩を利用し之れに流水を滿ふるものなりと

▲惡水路の開鑿 古阜水利の水害は之れを貯流する河水の過多に依るよりも寧ろ平野に勾配なく從つて排水の不充分なる點に歸せざるべからず古阜線の流速甚だ緩にして斷面も比し排水量少なく平野中比較的低地なる部分には惡水停滯し遂に水害を惹起するに至るものゝ如し依つて降雨流水潮流等の關係を考査し延長七千三百間の惡水路を新設するものなり又道路を新設し古阜川尻扶安郡白山面德山里附近に高さ九尺中十二尺八連の閘門を設置し惡水を用水に利用する事を得せしめ古阜川右岸及上式灌漑區域約四百五十町歩の灌漑を便にすべしと

▲工費五十四萬圓 總工費は五十四萬圓の豫定にて十二箇年賦の池堰現費敷地費惡水路費等に其の全額を費やす灌漑面積三千六百町歩に割當ては一反十五圓に該當する山

▲一望沃野千里 の概あり然れども其の灌漑狀態に至りては倒むべきものあり山間に數多の貯水池あり雖も其の多くは小規模のものにして灌漑區域の平野に及ぶもの殆んどなく單に古阜川に流を設け之れに流水を注へて唯一の用水たらしむるに過ぎず然も其の水量極めて少なく平野の耕地約四千町歩は全く天然に任するのみ從つて毎年降雨適順を得ざれば耕地は用水缺乏して地盤に龜裂を生ずる等比々皆然らざるはなし又扶安郡白山面及び井邑郡古阜面一帶の低地は單に前記の旱害のみならず屢々水害をも被り收穫皆無の悲況を視る事少なしとせざりき

▲水利計畫の目的 古阜水利計畫は右の如き平野の旱害を除き適當なる水利を得せしめ併せて水害の大部分をも除去する目的にて全北道廳東拓會社等直接間接に勸奨を仰ぎ本年度より着手し十六町歩の貯水池を新設し又苗浦街道筋通稱蟹沢を修築し其の上流田面に所要の水量を貯へ其の他用水路三萬八千四百間惡水路七千三百間を掘鑿し水利を通じ尚附帯工事として道路暗渠閘門水樋堰堤及び橋梁其他小用惡水路等の設備をなすものなりと

▲設計の大要 初め古阜水利組合の豫定灌漑總面積は四千四百町歩(現在田四千八十五町歩生地三百二十五町歩)なりしが道路及用惡水路敷地等公用に供すべきものを除けば精測の結果は三千六百町歩を出でざるべく亦用水の水源は別つて二と所の内既に定平郡界の二箇所は開鑿を終り一箇所の峻坂を餘すのみ、廣杤したる橋梁は新たに架し自動車の運輸を安全ならしむべく道に於て設計し昨今大に工事の進捗を圖り居れば坂路開鑿修了と同時即ち本秋までには全部竣工する筈なるを以て大塚中原氏等の計畫せる自動車が許可となり運輸を開始し咸興元山間の旅客に歩からは便宜を與へ得るも本年内なるべしと(元山)

# ◎皇后陛下行啓

日本赤十字社總會

日本赤十字社は六日日比谷公園に於て第廿四回通常總會を開催皇后陛下の行啓を仰ぎたり當日陛下には午前十時宮城御出門千種典侍御陪乘德川皇后宮太夫其他供奉員を隨へさせられ御順路日比谷公園に成らせられ總裁閑院宮載仁親王同妃、東伏見宮同妃、久邇宮同妃各殿下を始め奉り花房、小澤正副社長其の他多數の奉迎を受けさせられ北房社長の御先導にて便殿に入り御御小憩の後再び北房社長の御先導にて式場に臨御あり左の令旨を賜ひ尋で閑院總裁宮殿下御前に進御、奉答文を奉讀し終つて社長の御先導にて奏樂洋々たる裡に便殿に入御諸員奉送、御機嫌麗はしく還啓遊ばされたり(東京特電)

令詞

茲ニ日本赤十字社第二十四回總會ニ臨ミ親シク各員ヲ視ルヲ欣ブ、本社ノ事業歲ヲ逐ツテ發展シ體ニ歐洲ニ派遣シタル救護員ハ最モ良好ナル結果ヲ收メ今ヤ其ノ任務ノ終了近キニ在ルハ深ク滿足スル所ナリ尚將來社業ノ倍盛大ナランコトヲ望ム

任朝鮮總督府臨時土地調査局技手 堀井長八 小原乙次郎 齋藤龍勇 遠山學而 山川持吉 中村彦三

同 同 吉田順一

同 同 同 

# ◎電話で敵の秘密を探る

## 地下線の應用—敵國語は使はぬ

近時野戰電信電話の進歩發達は敵味方並に其の軍の行動の秘密を保つに困難ならしむるに至り奇襲とか奇略とか云ふ事は實際至難の事となつたのだ相互に偵察兵又は密偵等を各要地に派遣し野戰電話に依り其の狀況を通報する利便があるからである現時の歐洲大戰に際しては獨墺側は勿論英佛露軍の側にあつても

### 野戰電話の設備

に關しては多大な費用を投ずるを吝まず戰線に於ける各種の重要な通報は何れも野戰電話に依りつゝあるらしい此の野戰電話機たるや頗る堅牢で且つ輕くなければ不可ぬ又其の取扱方は簡便で器具の如きは折疊に便利なるを要し而して運搬し易からねばならぬ又運搬用の車輛の如きも特種のものでなければ不可ない米國新聞紙の記載する所によると獨逸軍では一部隊の司令官たるものは少なくとも七十五哩の電線と

### 六十個の電話機

を搭載せる車輛約三十臺を携帶してゐると云ふ、此の野戰電話を有効に使用せんと欲するならば電話使用者以外のものには其の器械及び線路の所在を絶對に秘密にする必要がある然らざれば敵軍から其の通信機關を破壞せらるゝか若くは之れを逆用し味方を欺むくの用に供せらるゝ虞れがある其の線路機械を秘密にせる一例を話すと或る米國人が獨逸の某停車場を通過した時一人の獨逸兵が附近の花圃の中にありて甚だ恰も花の手入れをなしつゝあるものゝ如く見ゆるに偶然の機會により右の兵士が

### 花圃の中にあり

野戰電話を使用しつゝあるを知つた

### 偵察の任務の便

に供する等其の利用の範圍の多大なる事は昔ぬく人の知つてゐる所であらう、それから野戰電話と野戰電信とを比較すると各一得一失がある急速に事務を處理するは電信より電話が便利である然し電話は話した許りで證據となる書類を殘さぬのみならず確實と云ふ點に於て電信に比し不利の點が多いけれどしかし電話の使用に付ては電信の如く特種の技能を要せず且つ各種の報道を迅速に處理する便あるを以て

### 近時獨逸軍では

野戰電信より電話をより多く使用しつゝあるのみならず野戰電信を電話に變更するものも次第に多きを加へつゝあるさうだそれから戰時中獨逸では英語の電話通話を禁じ英國では獨語の電話通話を禁じてゐる或る米人は最近獨逸國内を旅行し最も不便を感じたのは獨逸で英語の電話が出來なかつた事だと云つてゐる唯單に米人が自國の俗事館員と通話するにも獨逸語を使用せねばすぐ切斷されたと云ふ尤も之れは佛國も亦伊國も同樣らしく要するに各交戰國では敵國の密偵を取締る必要上電話の用語に制限を加へたもので當に電話のみならず電信用語にも亦各種の制限があり一般極めて不便を感じてゐる次第である（矢野通信課長談）

つみ草（東大門外にて）

## □皇后宮の御養蠶

紅葉山御養蠶所にて

皇后陛下には來る廿四日の御誕辰を期し紅葉山御養蠶所に於て蠶種の御飼育を遊ばされ給ふ由なれば殊に御興味をせられ、皇太子妃殿下御代にて御養蠶所に於て御養蠶遊ばされたるが皇后陛下となりたるよりは昨年も去る廿日から宮中御養蠶を御繼續になり今年も去る日から宮中小紅葉御養蠶所に於てお始めに相なり蠶種に日本産の優秀なるものゝ中より選擇したものと歐洲種支那種とを相川ひあり、桑畑は蒔本丸跡に六反及び西丸下に四反四畝に少々あり西ヶ原の桑園は桑畑を本年度より本年度は主として居るの中、金澤高等蠶絲學校、同蠶業所等の生徒は學生中の最優秀なる者より選ばれ十名の助手なり、御蠶の方法は民間と少しも違ひなく、又陛下には蠶侍その他の女官を時々交互に遣はされて實況を視察せしめ給へるやに聞く次第なり（東京）

## ◎射撃したのは三十餘名

### 内地人憤慨す

上海より熊野丸にて六日朝門司に入港せる歸客の談に據れば二日夕刻に於ける支那巡査の射撃事件は發狂漢

## 聰子殿下御分娩

御懷妊中の東久邇宮妃聰子内親王殿下には麻布御邸内の御產殿にて御產養中のところ六日午前二時御分娩あらせられ御母子共至つて御健全に渡らせらるゝ由（東京特電）

汝なりと歸解し居るも當時三十餘名の支那巡査走せ集り銃を揃へて發射し十數名の死傷者を出したるものに假りに初めの一名が發狂者なりとするも三十餘名等しく發狂する間なしとて日本人は何れも憤慨し居れり（門司特電）

## ◎雨の降らぬ臺南

### 日中は百三十度

臺南地方にては去月上旬頃四十六粍二の少雨量を降下せし以來更に一滴の降雨無く而も室内に於てすら毎日日中ごろは九十度内外の氣温を計り尚外部に於ける日光直射の地上面は何れも百三十度以上の高熱を計れるを以て昨今水利の便なき稻田並びに旱天田は何れも枯渇、龜裂を生じ就中柚所濟の蔗園には施肥不可能なるのみか畑地作其他灌漑の便なる田園に作附せるもの等に至りては發育及び分蘖を阻害せられ中には枯死に瀕せるもの少からざる狀態なるのみならず又一般農作狀態は不良の傾向ありて近來感冒、癩疹其他の惡病患者增加の模樣ありと爲めに製糖會社並びに農民其他一般に降雨を望しつゝあり

## ◎下駄が手掛り

### 錠前破りの大賊逮捕さる

四月二十九日午後九時頃京城和泉町長友某方に一名の賊侵入したるを外出先より歸宅したる家人に發見され百下駄一足を殘して一物をも得ず逃走したり急報に接し本町署にては此の下駄に依りて捜索中遂に同夜十一時半頃南大門驛前にて怪しき男に出會し飛事が取押へんとしたるに頑强に抵抗したるも漸く逮捕し本署に引致して取調べしに件の男は龜井市尾（上中町生れの九本管次郎（二）といふ）なるものにて常に鮮人宿に泊り込み錠前破りの金具を所持し居りて四月十五日午後八時頃旭町一丁目大島某方家人の不在中錠前を捻り切りて侵入し略奪織マント外九點（約七十圓）を奪取し僞名して入鎮したるを手初めに外數箇所に於て同樣手段を以て窃盜を働きたる事判明し目下取調中

## □釜山に要塞

釜山は實際樞要地だ

### 要塞は新式でない

### 阿部陸軍中將談

六日午前入港の職絡船櫻丸にて著釜上陸せる築城本部長阿部陸軍中將は往訪の記者に話つて曰く『私は二十七八年役の時に仁川に來たのと三十七八年役の折鎮南浦に鳥渡居た事があるだけで實際に

### 朝鮮の土

を踏んだのは今回始めてとある、曾て大正元年から二年にかけて對州の嚴原にゐた時寺内總督から來鮮を勸められ是非一度來て見ないと思つてゐた、同年の六月に由良要塞に轉任になつたので

### 要塞の樣

に思つてゐるが實際に於ては白耳義國境のアントワープの最新式なるには遙かに及ばないのである、然らば何故にアントワープが獨軍に奪取されたるに對してゲルダンが陥落しないかと言ふ事に參加して居る者は容易ならぬ苦痛を味はつてゐるだらうと思ふ。（電報山）

### 要塞の樞要地

釜山は實際樞要地だ要塞は新式でない

### 阿部陸軍中將談

六日午前入港の職絡船櫻丸にて著釜上陸せる築城本部長阿部陸軍中將は往訪の記者に話つて曰く『私は二十七八年役の時に仁川に來たのと三十七八年役の折鎮南浦に鳥渡居た事があるだけで實際に

### 朝鮮の土

を踏んだのは今回始めてとある、曾て大正元年から二年にかけて對州の嚴原にゐた時寺内總督から來鮮を勸められ是非一度來て見ないと思つてゐた、同年の六月に由良要塞に轉任になつたので

### 要塞の樣

に思つてゐるが實際に於ては白耳義國境のアントワープの最新式なるには遙かに及ばないのである、然らば何故にアントワープが獨軍に奪取されたるに對してゲルダンが陥落しないかと言ふ事に參加して居る者は容易ならぬ苦痛を味はつてゐるだらうと思ふ。

### ▽今回が始めてとある

船の上で港口から望見した時は釜山は非常に狹い市街だと思つたが目の邊臨んで見ると市街の背景となつてゐる龍頭山が聳立して市街の半部を覆ふてゐるのであつて實際は街衢廣濶半島の咽喉を扼し

### ▽歐亞大陸

と日本内地の聯絡地點になつてゐる關係上要塞の必要がありはしないだらうかと思ふ、有事の際に於て日本の海軍力が餘程衰へても此處に堅固の要塞があつて同樣らしく要するに各交戰國では敵國の密偵を取締る必要上電話の用語

### ▽朝鮮の土

を踏んだのは今回始めてとある、曾て大正元年から二年にかけて對州の嚴原にゐた時寺内總督から來鮮を勸められ是非一度來て見ないと思つてゐた、同年の六月に由良要塞に轉任になつたので

### ▽要塞の樣

に思つてゐるが實際に於ては白耳義國境のアントワープの最新式なるには遙かに及ばないのである、然らば何故にアントワープが獨軍に奪取されたるに對してゲルダンが陥落しないかと言ふ事に參加して居る者は容易ならぬ苦痛を味はつてゐるだらうと思ふ。（電報山）

### ▽今回が始めてとある

船の上で港口から望見した時は釜山は非常に狹い市街だと思つたが目の邊臨んで見ると市街の背景となつてゐる龍頭山が聳立して市街の半部を覆ふてゐるのであつて實際は街衢廣濶半島の咽喉を扼し

### ▽歐亞大陸

と日本内地の聯絡地點になつてゐる關係上要塞の必要がありはしないだらうかと思ふ、有事の際に於て日本の海軍力が餘程衰へても此處に堅固の要塞があつて同樣らしく要するに各交戰國では敵國の密偵を取締る必要上電話の用語

### ▽朝鮮の土

を踏んだのは今回始めてとある、曾て大正元年から二年にかけて對州の嚴原にゐた時寺内總督から來鮮を勸められ是非一度來て見ないと思つてゐた、同年の六月に由良要塞に轉任になつたので

### ▽要塞の樣

に思つてゐるが實際に於ては白耳義國境のアントワープの最新式なるには遙かに及ばないのである、然らば何故にアントワープが獨軍に奪取されたるに對してゲルダンが陥落しないかと言ふ事に參加して居る者は容易ならぬ苦痛を味はつてゐるだらうと思ふ。（電報山）

## ◎病院前で絶命

### 憫れむべき寡婦

水原邑内生れの李召史（三八）は夫に先立たれ七才と四才との二女兒を抱へ居り糊口に窮する所より二兒を伴れ陸行して漸く五日夕京城に來り本町署附近に差蹇たる際突然七歳なる姉娘は卒倒し施すべき術もなきより李召史は其儘本町署に走り込み事情を述べて救護を願ひ出でたるも折柄警察醫不在なりしより署員は最寄なる長谷川町安東醫院に伴れ行きたるも少女は同門前にて既に絶切れ同院にて應急手當を加へしも遂に其効なく診察の上急性腦膜炎と判明し警察署にては行旅病者として埋葬に附し李召史には署員より若干の金員を惠

## 城壁廻り延期

### 七日城壁廻りは六日降雨の爲め道筋險惡となりたるを以て次回の日曜（十四日）に延期す

日午後三時より盛なる献堂式を行ひたり式は李王職音樂隊の奏樂に君が代を吹奏し其より聖花學堂生徒の讃頌其他祈禱、聖書朗讀式の如く終り會長洪鍾蕭氏開會の趣旨を述べ驪に英國聖公會主教トローブ氏司式にて献堂式並に新任總務尹致昊氏就任の式を行ふ次に尹致昊氏は内地人側の名譽理事三名を紹介し渡邊暎氏又起つて就任の挨拶を爲したり寺内總督は公務の差閊へありて字佐美長官總督の代理にて『宗教の教育に强に今又體育を以てせるは健全の身體に健全なる精神を養ひ忠實有爲の國民を作らんとするに外ならず之れ信教は自由なりと雖も又國法と背馳すべからず』との要旨にて祝辭を朗讀更に總督の寄附金三百圓

### ◎電車ボール落つ

六日午前九時二十分京城貫金町一丁目電車交叉點に於て京城電氣會社の九十六號電車のボール脱落したる爲め約十分間停車したるも人畜の被害なし

### ◎鑛業者の必讀書

今回京城永樂町斯道館にて發行せる朝鮮鑛業出願者必携は條項を逐條的に說明し萬般の手續等を何人にも了解すべく平易に言文一致體にて詳細解說し殊に鑛區鑛種別分布圖を添付しあり朝鮮全道の各種鑛物の所在は本圖にて一目瞭然たり（金貳金六十錢郵稅六錢）

### ◎統營の火事

三日午前一時頃統營内面生れの增軍金成業方より出火し同人方並隣家二戸を焼き午前三時鎮火したるが損害は二百餘圓なりと

### ◎後場保合

（前場は昨日の最高値なる大幅の上昇なりしに今日は前日の反動なる大幅の下落なりしが後

京城日報 (明治四十五年八月十日第三種郵便物認可) 第三千百十號

# 千生瓢 (205)

須藤南翠作
筒井年峰畫

## 長瀑 (六)

秀吉が稍や鮮む色あるを見て、勝入齋の肩は自から峙つた。

『去りながら、入道が籌策御胡亂と思し召さるゝか』

『いや〳〵左樣ではおざらぬ』

傾けた首を正して、秀吉は莞爾と笑つた。

『老功の御手立、誠に然るべう存ずるが、家康と申す男、少年の頃より海道一の弓取と稱へられた曲者、今までの敵と一樣には扱はれ申さぬ。ちやうに伏つて今宵一夜篤と熟考致いた上、明朝是れより御返事申さうと存ずる』

『御熟考とあらば、其拒み申すにては おざらぬが、猶密々申し置きたい事おざる』

入道が膝に突き立てた拳には、滿身の力が加はつた。秀吉は相も變らず莞爾と笑みかたむけて

『悅んで承はり申す、何なりとも仰せられい』

『然らば申しまする』

勝入齋は一段と聲を密めた。

『愈々と相成るまでは、秘中の秘とおざる。何分にも御内密に』

『宜くおざる、承はるは秀吉一人、他には決して漏らし申さぬ』

『御警言忝ない。餘の儀ともおざらぬ、當國の鄕民どもに寒切の者を作つておざる』

『其は老功の御妙計、一段と鄕合好き事おざらう』

秀吉が滿足の色を浮べたのを見て勝入齋は自ら意氣の昂るのを禁めかねて

『三州には一向門徒の一揆以來、深く宗門の事を配慮罷り在る事、入道よつく存じ居る。仍て當春日井郡の內篠木、柏木の二鄕は、概ね一向宗の門徒なる故、この門徒を語らうて小牧と三州との通路を斷たせ、まつた案內者となつて三河に入り、彼地の門徒に旨を諭して、一味合體させようとの魂胆。今日潛りなく成就して、篠木の大將は、村瀨作右衞門に申し付け、要害の大將は、柏井の鄕士森川權右衞門に申し付けておざる。自然御評定永びくに於ては、鄕民どもの心能反して、却つて害をなさうやも知れ申さぬ。篤と御實慮下し置かれい』と滔々と述べ立てた。

秀吉は委細を聽いて

『重ねゝ〳〵の御手立、入道殿ならでは、秀吉厚く感心致いておざる。萬事整然として調つたのである。勝入齋は固より必勝を期して立てた策の事であるから、一合次第に軍を動かして、萬事早急を以て開ゆる筑前守をも、驚かし奧れんと謀つたのであつた。斯う何事も整頓して見ると、一刻でも安閑としてゐるのが身に堪へ難い苦痛である。で、首尾の一夜をよくも眠らず、五日の早天、瑞龍寺の陣を發して、犬山城へ發途した。

再び秀吉に面會して

『家康も去る大將おざる。篠木、柏井の鄕民に手を廻して、我に代て要害を營ませぬうち、疾く要害を設け、鄕民共を籠め置きて、我の通路を斷ん手立を運すよし、委細聞き出いておざる、御思慮如何おざるやらん』と片睡を呑んで詰め寄つた。

◎平壤より 天下嘯道豪雄大に四圍霞みたり 乙密臺

江に臨む樓や塔あり花の散る 綾羅島

柳並木帆の動く雲雀囀れり 大同江

馬と人と渡るや柳綠む岸 練光亭

光榮の丘なり松に春の風 牡丹臺

## 新刊紹介

▲陸(三四) 思想上の革新が支那の金融界に及ぼす影響 (東京堂發行)

▲大正五年五月七日 (日曜日) 第三種郵便物認可 大阪株式時報

清酢 マルカン印
日本一 創業三百有餘年
各地到る所の醬油店に販賣せり
特約店 日本醬油株式會社出張所
京城太平通二丁目 電話二四五番

一向門徒を叛かること、至極の妙策珍重此上おざらぬが、何を申すも一大事の儀おざる。決して左樣の蔑度あらうとは存せぬが、萬々一にも仕損ずるに於ては、其跡至つて仕惡くおざるに伏つて、兎にも角にも、明朝まで熟考の猶豫を、御與へ下されたい』と申し懇めた。

勝入齋も再應の熟考を聽かされて此上强て迫るべき言辭もなかつたので、明朝を期して是非なく犬山城を去つた。

けれども、瑞龍寺の陣所にては、嫡子紀伊守之助、二男古新輝政、聟森武藏守長可を始め、譜代の劍等相會して、三州中入の合戰に付き、密々謀議を凝らし、既に進軍の部署を定め、作戰の方向をも決したのであつた。明朝愈々秀吉の允可を得次第直にも發向出來得るやう、總ての計盡を施して、些との遺憾もない程に

▲工去(一七) 土木事業の現在と將來 (國民新聞)

▲世界公論(五月號) 時事政論に關して (日本の地位と對外關係 (國際法學士 長谷川鶴)

▲ローマ字(一一の五) 十二錢 東京市麴町區有樂町一の三

▲燃料新報(二四の二七八) 活用せよ論改革 (日本の燃料問題 (十五錢 東京市麴町區有樂町一の三)

▲東京藥種貿易商報(三三二) 五錢 東京市日本橋區本石町四丁目

▲茶業界(一一の五) 支那茶業調査報告 (東京茶業組合發行)

▲世界公論(五月號) 時事政論に關して (日本の地位と對外關係 (國際法學士 長谷川鶴)

▲獨習書法速成帖 山口半蔵氏は富山縣に在りて仰筆書法の他實用書寫の任に當りつゝあり之を獨習の他實用書寫の任に當りつゝあり之を獨習の他實用書寫の任に當りつゝあり

▲書道要訣 本書は組織的に書法の要訣を說明したもの (東京市神田區錦町一丁目)

▲ローマ字(一一の五) 十二錢 東京市麴町區有樂町一の三

▲燃料新報(二四の二七八) 活用せよ論改革 (日本の燃料問題 (十五錢 東京市麴町區有樂町一の三)

▲世界公論(五月號) 時事政論に關して (日本の地位と對外關係 (國際法學士 長谷川鶴